

## 校長室だより No 8

# 学力の捉え方が変わってきました

2023年12月6日 柏市立土小学校 校長 梅津健志

OECDのPISA調査の結果が公表されました。時を同じくして、今日と明日、「学びの未来デザインシート」という、今までの「テスト」というものとは、違う調査を行います。この調査は、学校の授業で学んだことを実際の社会の場面で使って活かせるように身につけているか、ということをチェックするものです。

3学期には、一人一人に「学んだことを活かす力の傾向」や「これからの学び方に向けてアドバイス」がフィードバックされます。しかし、県や市や学校の平均正答率などは公開されません。そこが今までの調査と大きく異なるところです。子供たちは自分の結果から今までの学習の取り組みを見直し、意欲を持って取り組むように、教員は自分が授業した内容がどれだけ子供の中で汎用性のある力になっているかを見取り、その状況を授業改善に活かすようにすること、つまり、子供と教員の両方に、自らを振り返り、次の変化を生み出すことが、この調査のねらいです。

今までテストは、勉強した結果を査定する意味が強く、さらに「学んだことを実際の場面で活かせるか」というものではありませんでした。千葉県は全国初の取り組みとして、今年から県内全ての小3から中2で調査を行い、学校の学びと社会をつないでいく意識を高めています。調査方法もCBT方式というコンピュータを使って行い、動画や音声などを使っての出題も可能になっています。

この調査は、私が5年前に千葉県教育庁の学力向上室という部署の管理職に、学力向上プランのリニューアルをミッションとして赴任した際、学力の考え方が受験学力に留まり、今必要とされている学力観に変化していないと感じました。そこで、当時の学力プランを大幅に単純化し、学力向上のカギは「子供の学ぶ意欲」と「教員の授業改善」の2つに絞り、その状況を見取る調査として、「学びの未来デザインシート」を発想考案し、私の手を離れ5年の年月を経て実現しました。5年前に本調査の開発として獲得した予算と本年度予算を比較すると250万倍になっており、学力というものが、入試や定期テストでよい点を取るといった最大瞬間風速的なものではなく、社会の状況の中で出会う課題を解決するために活用できる形で身に付くことが大切だと、認識されてきたことを感じます。

その部署から土小学校に赴任し、3年が経とうとしています。土地域の皆様、保護者の皆様に協力いただきながら進めている学習の結果が、このシートにどう反映するか楽しみです。身の回りの事に課題を見つけ、自分で考え、友達と協力して解決していく、そしてさらに探究していく、そういう学びの時間を少しでも多く持ち、これからの社会につながる学力を育てていきたいと考えています。